

2 海洋教育部

(1) 海洋教育とは

日本は海に恵まれた世界有数の海洋国家だが、国民の多くはその海の豊かさをあまり認識していない現状にある。人間は豊かな海からの恩恵は積極的に受け入れようとするものの、人間から海への豊かさを守ろうとするアプローチは大変脆弱であると言える。昨今は東日本大震災での大規模な被災をきっかけに沿岸部でも海離れが深刻になっており、古くから築かれてきた海と人との関係性がどんどん稀薄になってきているという現状がある。

そこで海に親しみ、海を知り、海を守って、海を利用する海洋教育が全国各地で展開され、重視されるようになってきている。平成19年度には海洋基本法が制定され、学校教育における海洋教育の推進がうたわれ、平成30年度に改訂された「第3期海洋基本計画」では、「子どもや若者に対する海洋に関わる教育の推進」として、「2025年までに全ての市町村で海洋教育が実践されることを目指す」と発表された。笹川平和財団による平成29年度の調査では、全国の45.1%の自治体が「海洋教育を実践している」と回答した。福島県会津若松市、山梨県甲府市など、海と直接面していない山間の地域においても海洋教育が展開されるようになってきている。さらに、平成27年度に開催された「国連持続可能な開発サミット」においては、「持続可能な開発目標(SDGs)」が採択され、世界全体で取り組むべき課題が「17の目標に紐づく169のターゲット」という形で明示されている。特に目標14「海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する」については、海洋国家である日本において、重点的に実現を目指していくべき目標となっている。

このような国内外の動きの中で、海洋国家である日本、海とともに先人たちが生活基盤を築いてきた気仙沼市において海洋教育を実践し、関連するSDGsの実現に迫っていくことは大変意義深いことと考える。

※SDGs…Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標) の略

(2) 学力向上に向けた海洋教育の在り方

本研究で目指している「思いや考えを伝え学び合う児童の育成」のためには、主体的・対話的で深い学びの実現が必要不可欠であると考え。海洋教育の実践においては、児童の海に関する知識やこれまでの生活体験を探究課題設定の場面に生かし、児童に課題を自分のこととして受け止めさせることを重視してきた。また、授業で学習したことを海で起きている自然事象や海に関するニュースに置き換えて考えさせることで、対話を通した新たな気づきの発見を促し、更に深い学びへと児童を誘うようにしてきた。復興スローガンに「海と生きる」を掲げる気仙沼市において、地域の先人が古くから向き合ってきた海洋を教材として扱いながら学習を展開することは、生涯に渡って学び続けようとする学習意欲を構築すること、探究的な学び方を身に

付けさせることが期待できる。また、気仙沼市教育大綱に示されている復興の担い手として必要な「郷土に貢献する力」の育成にもつながると考える。

本校では今年度から海洋教育実践の柱となる単元を各学年に設け、実践のキーワードを「つなぐ」と設定し、教科・領域を横断して学びが展開する海洋教育の特性を生かし、カリキュラム・マネジメントの重点を以下のように整理した。

「つなぐ」	海につなぐ	授業で学んだことや日常生活で見聞きしたことを海で起きている事象や環境の変化に結び付け、学びを深めさせること。
	海でつなぐ	授業で学んだことと日常生活で見聞きしたことを海で起きている事象や環境の変化を切り口に結び付け、学びの系統性を実感させること。
	海をつなぐ	海を介した気仙沼市と他国や他地域のつながりや海と生きる人々の思いのつながりを見だし、郷土に貢献する意欲を持たせること。

(3) 指導の実際



第4学年 社会科 「わたしたちの県」

宮城県の海岸線の形状を地図上で調べ、漁獲量を示す統計資料と関連させながら考察することを通して、宮城県の地形と産業の関係について話し合わせるようにした。海岸線の長さ比べをし、リアス海岸の特徴にも気付かせた。



第4学年 社会科 「県の広がり」

リアス海岸を実際に歩きながら、リアス海岸がどのように作られていったのかを知る学びを展開した。気仙沼湾の養殖いかだの見学も行い、養殖業発展の歴史に目を向けさせるようにした。



第5学年 社会科 「水産業のさかんな地域」

気仙沼魚市場の見学を行い、気仙沼市で水揚げされる魚がどこに運ばれ消費されているのかという学習課題を設定した。海を介した他国や他地域との関係に興味を持たせ、水産業の持続可能な発展について考えさせた。



第6学年 理科 「生き物のくらしと環境」

南極の氷を教材として扱い、海水が世界を結んでいることに気付かせるようにした。海水温の上昇や地球温暖化についても触れ、海の環境の変化が私たちの生活とどのように関連しているかを児童に考えさせるようにした。

気仙沼小学校 海洋教育全体計画

<全体目標>

海の環境や資源，海を取り巻く人や社会とのつながりについて関心を高め，海と共生しようとする考え方や行動力を身に付けた児童を育成する。

<アプローチを図るSDGs（持続可能な開発目標）>



教科・領域を横断した学びの系統性を，児童に実感させる授業実践

<実践のキーワード>

つなぐ

海につなぐ

海でつなぐ

海をつなぐ

<カリキュラム・マネジメントの重点>

授業で学んだことや日常生活で見聞きしたことを海と結び付けること。

授業で学んだことと日常生活で見聞きしたことを，海を切り口に結び付けること。

海を介した気仙沼市と他国や他地域との結び付きに気付かせること。

柱となる単元と主な学習活動例		目指す児童の姿
第1学年	【国・生】うみとともだち ・家族と一緒に磯遊び ・海の生き物の飼育と観察	海の豊かな自然での体験や関わりを通して海に対する関心や感受性を培い，海に進んで関わろうとする児童
第2学年	【生】みんな小さな海はかせ！ ・岩井崎で磯観察と海の生き物探し ・地域の魚屋さんとの交流	海の豊かな自然や地域社会の中での体験や関わりを通して，海や海で働く人に対する関心や感受性を培い，海に進んで関わろうとする児童
第3学年	【総】海を生かした地域の産業 ～シャークナゲットを追って～ ・商品開発をする方へのインタビュー活動 ・観光客に向けたポスターづくり	気仙沼市の水産業を教科，領域の学習を横断しながら多面的・多角的に見つめることを通して，海と人との深い関わりに関心を持ち，進んで調べようとする自主性を培う。
第4学年	【総】防災マップをつくろう ～防災・減災のためにできること～ ・東日本大震災時の学区内の被害状況の整理 ・防災マップの作成，マップ活用方法の構想	安心・安全で環境に優しい町作りという視点で海と人との関わり方を見つめ直すことを通して，持続可能な地域の発展について自分の考えを持つ児童
第5学年	【総】海と人との共生について考えよう ・沿岸部に生息する魚，水揚げされる魚と漁獲量の調査 ・地元の水産加工会社や卸売業者の方の講話 ・海洋ミニサミットの開催	海で起きている様々な環境問題を調べることを通して自分たちの生活や水産業の課題を見だし，海的环境保全に主体的に関わりながら，海と人との共生を目指そうとする児童
第6学年	【総】気仙沼復興プロジェクト ～私のまち 未来の気仙沼～ ・地域の復興状況，海に起因する環境問題の調査 ・これからの海との向き合い方についての提案	気仙沼市の復興に携わる方と意見交換しながら探究的な学びを展開することを通して，これからの自分たちの生き方について考え，海と共生する市民としての行動力を持つ児童

海に親しむ学び

海を知る学び

海を守る学び

海を利用する学び

海洋教育クロスカリキュラム

コンセプト	海に親しむ	海を知る	海を守る	海を利用する
第1学年	<p>【生】なつだ あそぼう 磯・砂浜・海水浴</p>	<p>【生】いきものとなかよし 【国】どうやってみをまもるのかな 海の生き物</p>	<p>【音】はくをかんじてリズムをうとう (うみ) 海の広さ・海の色・海的美しさ</p>	
<p>【国・生】うみともだち</p> <p>・家族と磯遊び ・海の絵日記の作成</p> <p>・2年生が見付けてきた水生生物の観察・スケッチ</p> <p>・海の生き物を教室で飼育</p>				
第2学年	<p>【生】生き物なかよしだい作戦 【図】どうぶつさんといっしょに 海の生き物</p>	<p>【生】もつとなかよしまちたんけん 魚市場・魚屋</p>	<p>【生】つたわる広がるわたしの生活 海の広さ・海の色・海的美しさ</p>	<p>【国】名人をしょうかいしよう</p>
<p>【生】みんなちいさな海はかせ!</p> <p>・岩井崎で生き物さがし</p> <p>・地域の魚屋さんとの交流</p> <p>・水産技術総合センター気仙沼試験場の方からの講話</p>				
第3学年	<p>【社】市の様子 気仙沼湾の特色</p>	<p>【社】店ではたらくひと 気仙沼の特産品 (フカヒレ)</p>	<p>【理】昆虫を調べよう 昆虫の体のつくり・磯の生き物</p>	<p>【社】工場の仕事 海沿いのまちの工業生産</p>
<p>【総】海を生かした地域の産業 ～シャークナゲットを追って～</p> <p>・シャークミュージアムの見学</p> <p>・サメについての調査活動</p> <p>・観光客向けのポスターづくり</p> <p>・地域資源を生かして商品開発をしている方へのインタビュー</p>				
第4学年	<p>【社】私たちの県 海岸線の土地利用</p>	<p>【理】自然の中の水のすがた 海水の蒸発と「けあらし」</p>	<p>【社】地震から暮らしを守る 東日本大震災・復興</p> <p>【社】水はどこから わき水が出る条件</p>	<p>【理】ものの温まり方 暖流寒流と潮目の発生</p> <p>【社】郷土の発展に尽くす のり養殖の歴史</p>
<p>【総】防災マップを作ろう ～防災・減災のためにできること</p> <p>・大島と唐桑の校外学習 (海岸線の様子の調査)</p> <p>・市役所危機管理課の方からの講話</p> <p>・備蓄倉庫の中身の調査</p> <p>・東日本大震災の学区内の被害状況の整理</p>				
第5学年	<p>【理】台風と天気の変化 台風の発生</p> <p>【社】水産業のさかんな地域 乱獲・貿易・養殖業</p>	<p>【理】流れる水のはたらき 地層のでき方</p> <p>【社】世界の中の国土 排他的経済水域、領海・EEZ</p>	<p>【理】魚の誕生 メダカの食べる微生物、(植物) プランクトン</p>	<p>【社】水産業のさかんな地域 水産業の発展</p> <p>【社】環境を守る私たち 森は海の恋人運動</p>
<p>【総】海と人との共生について考えよう</p> <p>・海岸散策と海岸清掃</p> <p>・水揚げされる魚と漁獲量の調査</p> <p>・海洋ミニサミットの開催</p> <p>・復興スローガン「海と生きる」を紹介するポスターの作成</p>				
第6学年	<p>【理】大地のつくり 化石の観察</p> <p>【総】気仙沼弁当を作ろう 未来に残したい地域食材</p>	<p>【理】生き物のくらしと環境 海の中の食物連鎖</p> <p>【理】水溶液のはたらき 海洋酸性化</p>	<p>【社】世界の未来と日本の役割 海を介した流通・国交</p>	<p>【理】大地のつくり 海底の砂の調査</p>
<p>【総】気仙沼復興プロジェクト～私たちのまち未来の気仙沼～</p> <p>・海の魅力を生かす方法の提案</p> <p>・海に関する環境問題の調査</p> <p>・海との向き合い方についての提案</p> <p>・海の持続可能な利用に向けた提案</p>				